

科目コード	28102		区分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	経済学概論		担当者名	平野 正樹			○		
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目では、経済学への入門として、今日の経済現象を考察する上で必須の経済学理論(ミクロ経済学とマクロ経済学)を概説した上で、複雑で捉え難い経済社会を整理して考える枠組みについて学ぶ。経済学はそもそも何を問題にしているか、資源を配分する仕組みとして市場とは何か、GDP(国内総生産)はどのように決定されるのか等について理解することを目的とする。

<授業の到達目標>

本科目では、経済学の基本的な考え方を学ぶとともに、実社会の様々な課題に対して経済学の観点からアプローチし、問題意識とその解決の方向性を探るための経済学的思考や分析視点の習得を目指す。経済学の基礎理論であるミクロ経済学及びマクロ経済学の基本概念を理解することを目標にするとともに、身近な経済問題にも興味を持つようになることにも目標を置く。

<授業の方法>

教科書を教材とする。板書を中心とするが、内容によってはPPT等で視覚的に分かりやすい方法も活用する。教科書以外にも資料を配付する。各講義の終わりにディスカッションを行う予定。講義内容によってはその理解度を確認するため、PPTの活用などによる双方向での授業を予定。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習・復習を行うとともに、日頃から新聞などで経済に関する事柄に目を通しておくこと。具体的には、教科書・事前配付物での予習90分、復習50分が目安。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本講義を履修し経済学に関する基礎学力を習得することで、戦略的提案能力や国際人・リーダーとして「社会に貢献する経営」を実践するための豊かな教養を身につける。広く経営に関わる専門知識・技能を備え、企業に関連する社会現象を分析・理解し、新たな戦略を創造・提案できる能力を身に付ける。

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

小テスト80%、各授業におけるレポートの提出・内容、授業態度等20%。なお、レポート等についてはその都度模範解答を提示・説明する。

<教科書>

関谷喜三郎他(2022年2月5日)
はじめて学ぶ経済学第2版
慶応義塾大学出版会

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	市場とは何か	家計と企業、市場の構成と循環など
2	需要を考える	需要曲線と需要の価格弾力性など
3	供給を考える	供給曲線と供給の価格弾力性など
4	市場における価格の役割	市場価格の決定と完全競争市場
5	市場の現実	独占市場と寡占市場など
6	市場の失敗	公共財と外部効果など
7	情報の経済学	情報の非対称性と逆選択
8	経済循環とマクロ経済学	生産物市場と労働市場の関連など
9	経済活動の大きさを測る	国内総生産と三面等価の原則
10	国内総生産はなぜ変動するのか	総需要がGDPの水準を決める
11	経済活動の安定性を左右する要因	消費需要は安定的や投資需要は不安定など
12	経済活動と金融	経済循環と貨幣や日本銀行の役割など
13	経済政策の効果	財政政策の効果や金融政策の効果など
14	グローバル経済を考える	為替レートの変動要因や貿易・金利・為替など
15	現代経済の課題	経済格差の諸問題や日本の人口問題など

科目コード	28106		区分	専門基礎科目		実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	簿記入門		担当者名	手嶋 竜二		○			
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

簿記は実学である。簿記を習得することは、就職活動に有利であり、また就職後の実社会で役立つ。本科目では、簿記の入門編として、簿記の基本原則である取引の範囲・取引の8要素（費用・収益・資産・負債・資本）の認識、及び会計処理を学び、総合問題対策として問題集などを利用して、簿記の基本的な技術を習得する。日商簿記検定3級の合格を目指す。

<授業の到達目標>

① 簿記の意義と役割を知り、複式簿記の基本原則を理解する。② 基礎的な取引の仕訳ができるようになる。③ 取引の仕訳から各帳簿への転記、試算表作成、決算までの簿記一巡の流れを理解する。④ 日商簿記検定3級の合格レベルを目標とする。

<授業の方法>

① 授業の方法は、予習型の方式で事前に動画を配信する。授業では、主に問題演習を中心とする。② 解いた問題の解説を行う。③ 電卓演習・集計作業などの計算を行うので、各自電卓（関数電卓不可）および定規を持参すること。④ 本科目では、問題演習の性質をもつため、個人学修によるところが大きい。⑤ 本科目では、日商簿記検定合格を目指している。日商簿記検定では答案用紙に手書きで回答するため、本科目でも手書きを主体とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

① 予習として動画を視聴する・テキストを読む・例題を解くこと。② 復習として、授業で行った練習問題を必ず自宅で解くようにすること。③ 本科目に関して、週に予習（テキストを読む、例題を解く）3時間と復習（練習問題を解く、わからないところをなくす）3時間に費やす必要がある。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

現実の課題に対し、経営活動での知識や情報をもとに論理的・数量的に分析する力、戦略的に問題解決に向けた意思決定をする力を身に付ける。そのために、本科目では、まず経営活動を貨幣数量的に捉える方法、原理、原則を学ぶ。つぎに、貸借対照表や損益計算書といった財務諸表の作成プロセスを学ぶ。そして、そのプロセスを理解することにより経営活動を数量的に分析する、あるいは戦略的に問題解決に向けた意思決定する能力を身に付けることができる。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

① 受講態度・学習意欲・授業への参加度 30%，② 小テスト 70% || フィードバック：締切後、次の授業において解答を発表し解説する。

<教科書>

滝沢みなみ(2022. 2. 26)
スッキリわかる 日商簿記3級 第13版
TAC出版
日本電卓検定協会(2006. 02. 01)
電卓技能検定試験問題集3・4級
大原出版

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価方法、授業方針、簿記とは
2	仕訳①	商品売買①、数字の書き方
3	仕訳②	商品売買②
4	仕訳③	現金、普通預金、定期預金、当座預金
5	仕訳④	手形、貸付金・借入金
6	仕訳⑤	その他債権債務、その他費用、有形固定資産
7	総勘定元帳（略式）	勘定への記入
8	試算表の作成	試算表の問題演習
9	精算表	問題を使用した解き方の説明
10	決算整理仕訳①	問題を使用した解き方の説明
11	決算整理仕訳②	問題を使用した解き方の説明
12	財務諸表の作成①	日商簿記検定での解き方の説明
13	財務諸表の作成②	日商簿記検定での解き方の説明
14	問題演習	日商簿記検定での解き方の説明
15	まとめ	本科目のまとめとアンケート

科目コード	3G200		区分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	ミクロ経済学		担当者名	平野 正樹			○		
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目では、消費者と生産者を中心として、消費者が限られた予算内で財(商品)を購入する際にどのような基準で意思決定をするのか、生産者が限られた資源(土地、労働等)をどのように有効に活用し財(商品)を生産しどのような方法で売り、そしてそれに伴う需要と供給、価格と数量の決まり方等、ミクロ経済学の基本的な考え方について学ぶ。これらの意思決定はわたしたちの生活にも身近なものであり、ミクロ経済学の考え方が現実の経済問題にどのように応用可能かについて理解することを目的とする。

<授業の到達目標>

本科目では、ミクロ経済学の基本的な考え方を学ぶとともに、実社会の様々な課題に対してミクロ経済学の観点からアプローチし、問題意識とその解決の方向性を探るための経済学的思考や分析視点の習得を目指す。経済学の基礎理論であるミクロ経済学の基本概念を理解することを目標にするとともに、身近な経済問題にも興味を持つようになることに目標を置く。

<授業の方法>

教科書を教材とする。板書を中心とするが、内容によってはPPT等で視覚的に分かりやすい方法も活用する。授業の理解度を高めるため、適宜レポートの提出を課す。講義内容によってはその理解度を確認するため、PPTの活用などによる双方向での授業を予定。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習・復習を行うとともに、日頃から新聞などで経済に関する事柄に目を通しておくこと。具体的には、教科書・参考書・事前配付物での予習90分、復習50分が目安。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本講義を履修し経済学に関する基礎学力を習得することにより、戦略的提案能力や国際人・リーダーとして「社会に貢献する経営」を実践するための豊かな教養として、歴史・社会・自然を含めた学際的な知識を身につける。現実の課題に対し、経営活動での知識や情報をもとに論理的・数量的に分析する力、戦略的に問題解決に向けた意思決定をする力を身につける。

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題(小テスト)で成績評価をする。なお、課題(小テスト)については模範解答を提示・説明する。

<教科書>

飯田幸裕, 岩田幸訓(2018)
入門 経済学 [第四版]
創成社

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ミクロ経済学を楽しむ方法	ガイダンス・ミクロ経済学を学ぶ意義
2	市場経済	インセンティブ(誘因)、商品の希少性
3	需要と供給	市場の均衡
4	価格と需要	需要曲線のシフト、需要の価格弾力性
5	需要と効用	効用とは、消費者余剰とは
6	価格と供給	供給曲線のシフト、供給の価格弾力性
7	供給と費用	生産費用の考え方
8	供給と利潤	利潤最大化概念、生産者余剰とは
9	完全競争と資源配分	最適資源配分の考え方
10	余剰分析	社会的総余剰、課税の効果
11	独占	不完全競争による市場のゆがみ
12	寡占	協力と裏切り、ゲーム理論
13	市場の失敗	外部性、公共財
14	ミクロ経済学と日本経済	貿易、公共料金
15	数学とミクロ経済学	経済学の数的理解

科目コード	3G201		区分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	マクロ経済学		担当者名	平野 正樹			○		
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目では、国内総生産、物価、利子率、失業率等の国(または地域)を単位とした経済指標・経済活動を中心に、日本及び世界経済におけるマクロ経済指標の現状を理解し、それぞれの指標がどのような意味を持ち、どのような関連性があるかについて学ぶ。|マクロ経済学における政府の役割、財政・金融政策の役割・必要性を理解し、これらの政策の効果を実際の経済データ等を用いて学ぶ。日本及び世界経済が抱える経済問題について、マクロ経済学の考え方で思考できることを目的とする。

<授業の到達目標>

本科目では、マクロ経済学の基本的な考え方を学ぶとともに、実社会の様々な課題に対して経済学の視点からアプローチすることでマクロ経済全体の動きを理解しようとする、経済学的発想・思考の習得を目指す。|具体的には、マクロ経済学の基礎理論を正しく理解することを第一の目標とし、マクロ経済政策、失業や物価問題、経済成長など、今日の日本社会が抱える経済現象に焦点を当て、マクロ経済学の視点から分析・考察して自分なりの見解を導き出すことを第二の目標とする。|

<授業の方法>

本講義は講義形式で行う。講義レジュメや各種資料は電子データ(pdfデータ)で配布するため、それらの参照用に、学生自身の情報端末(パソコンやタブレット)の持ち込み・利用を必要とする。また、分からない用語や内容については各種検索webサイトを利用して、授業中でも適時情報検索してもらう。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、必ずテキストの該当箇所を事前に予習することを必要とする。じっくり精読し、またわからない専門用語も調べるなど、予習にはおよそ60分~90分程度の時間を要する。|復習は必ず次回の授業までに行い、少なくとも授業時間と同等(90分)程度の時間を割くような学習姿勢が求められる。|その他、日経ビジネスをはじめ新聞やニュース、経済関連の情報番組などに普段の生活の中で積極的に接しておくよう心掛けると良い。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

国際人・リーダーとして「社会に貢献する経営」を実践するための豊かな教養として、歴史・社会・自然を含めた学際的な知識を身に付けている(DP3)。専門分野にかぎらず幅広い知識と理解を習得することで、高い専門性と実行力を備えた人材としての資質が養成される。そのためにも、本講義を履修し経済学に関する基礎を習得することは、経営学を専門的に学ぶ上においても非常に重要である。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

受講態度・学習意欲30%、課題20%、レポート50%で評価する。

<教科書>

飯田幸裕・岩田幸訓(2018)

入門経済学〔第四版〕

創成社

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	マクロ経済学を楽しむ方法
2	経済規模を測るGDP(1)	GDPとは何か、名目と実質、経済成長率
3	経済規模を測るGDP(2)	付加価値、三面等価の原則、GNI
4	供給サイドから見るGDP	潜在経済成長率、総要素生産性
5	需要サイドから見るGDP	寄与度、GDPの支出面
6	需要・供給と日本経済	新古典派とケインジアンの方考え方
7	生産・所得・需要の決定と消費関数	乗数効果、消費関数、45度線と所得水準
8	投資・政府支出の導入と国際経済への拡張	投資と政府支出、ISバランス
9	貨幣が持つ機能	貨幣とは、貨幣の機能
10	マネーサプライとハイパワードマネー	信用乗数、マネーストック
11	貨幣供給と貨幣需要	貨幣供給と物価、貨幣数量式、貨幣需要とは
12	マクロ経済政策	政策目標と政策手段、財政政策と金融政策
13	インフレーションと失業	インフレーションとは、失業率、フィリップス曲線
14	経済成長の理論	資本蓄積、労働人口、技術進歩、ハロッド=ドーマーの理論
15	総括	経済学と経営学

科目コード	65019		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	公務員と法		担当者名	宮園 司史			○		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

良好な治安を確保し、国民の生命、身体及び財産を守ることは、国の基本的な責務であるが、現在、我が国の治安は、サイバー犯罪・サイバー攻撃、国際テロ、組織犯罪といった重大な脅威に直面している。本科目では、このような責務の遂行に当たっている公安系公務員の業務を詳しく紹介するとともに、警察幹部としての経験談を交えながら、我が国の安全・安心の現状や課題、警察等における各種取組等について、幅広く取り扱い、我が国のセキュリティに関する理解と認識を醸成する。

<授業の到達目標>

公安系公務員の業務や我が国のセキュリティに関する基本的な知識を身につけるとともに、「世界一安全な日本」を実現するための各種取組についての理解を深めることを目標とする。

<授業の方法>

オンデマンド方式により授業を実施する。具体的には、毎回、各テーマに沿った内容について、パワーポイント等を使用して分かりやすく説明した動画を教材として配信するとともに、それぞれの授業に関して出題する課題への回答・提出を求める。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

それぞれのテーマについて、新聞、書籍、刊行物、インターネットなどから必要な情報を収集するなどして、課題に回答できるよう準備しておくこと（1時間程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

挑戦と創造の教育を建学の精神とし、①豊かな人間性と個性、②深い専門性と実践力、③コミュニケーション能力とグローバルマインドを身に付けた人材の育成を目指して科目を配置している。また、体育学科のディプロマポリシー1「体育・スポーツの科学的知見を深め、スポーツを通じた国際的平和の促進について理解する能力を身に付けている。」と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

①成績評価については、授業内容の理解度60%、授業参加の積極度40%で評価する。|②授業内容の理解度については、毎回の課題の回答内容の採点結果をもとに評価する。|③授業参加の積極度については、課題の提出状況をもとに評価する。|④規定以上の欠席回数がある場合や受講態度に問題が多い場合には、単位を認めないので、注意すること。

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	警察の任務と活動（その1）	警察の任務及び活動について、その概要を説明する。
2	警察の任務と活動（その2）	警察の任務及び活動について、その概要を説明する。
3	消防の任務と活動（その1）	消防の任務及び活動について、その概要を説明する。
4	消防の任務と活動（その2）	消防の任務及び活動について、その概要を説明する。
5	自衛隊の任務と活動（その1）	自衛隊の任務及び活動について、その概要を説明する。
6	自衛隊の任務と活動（その2）	自衛隊の任務及び活動について、その概要を説明する。
7	海上保安庁の任務と活動（その1）	海上保安庁の任務及び活動について、その概要を説明する。
8	海上保安庁の任務と活動（その2）	海上保安庁の任務及び活動について、その概要を説明する。
9	国民生活の安全確保（その1）	女性・子供の安全確保に向けた各種の取組や、昨今大きな社会問題となっている特殊詐欺の現状とその対策等について説明する。
10	国民生活の安全確保（その2）	地域住民の安全確保に向けた各種の取組や、犯罪を抑止するために進められている諸対策等について説明する。
11	犯罪情勢と捜査活動（その1）	我が国における犯罪の発生状況や検挙状況等を通じて、昨今の犯罪情勢の特徴、傾向等について説明する。
12	犯罪情勢と捜査活動（その2）	昨今の犯罪情勢に的確に対処するための課題や捜査活動の取組の現状等について説明する。
13	サイバー空間の安全確保	サイバー犯罪やサイバーテロ、サイバーインテリジェンス等、サイバー空間における各種の脅威の現状について説明する。
14	薬物犯罪を巡る動向と対策	覚せい剤等の薬物犯罪を巡る昨今の動向とその根絶に向けた対策の現状等について説明する。
15	総括・安全安心の現状	全体の講義を総括するとともに、我が国の安全・安心を脅かしている各種の治安事象や将来の見通し等について説明する。

科目コード	24306		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	多文化環境論		担当者名	中西 敏之			○		
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

国際社会では、ヒト・モノ・カネ・情報が地域や国境を越えて自由に往来し、これまで異質とされたものが次々と流入するようになってきている。本科目では、そうした自らと異なるものに対し、既存のコミュニティーはどのような反応を示すのか等、諸課題について考え、その違いを受容することによって、様々な文化・民族との共生を図ることについて考える。

<授業の到達目標>

①自文化を自覚し、その上で、異文化を理解し、受け入れる態度を身につける。②日本の社会がどのように異文化を持つ人々を受け入れているか、異文化を持つ人々と共存するために自分たちに何ができるか考えることができるようになる。

<授業の方法>

毎回、出された課題について話し合い、そこで出た意見を共有する。その繰り返しの中で、学生各自が自文化、異文化について認識し、また、日本社会がどのように異文化を受け入れているかを考える。教科書に沿った事例について話し合いを行うが、学生個人が自分の意見を持つことが重要である。Googleclassroomを活用した課題の配布、資料の共有など、ICTの活用に努める。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

発表：毎回3～4名に教科書の内容と自分の意見を発表してもらう。|宿題：15回のうち2～3回、レポート課題を出す。それには1～2時間程度時間を要する。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目はDP6(グローバル化・情報化による多様な環境変化の下、高い倫理観と豊かな教養力で問題解決に向けチームワークを構築する力を身に付けている)に関連する科目である。様々な考え方や価値観に触れることによって、様々な角度から物事を考える力を身につける。

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業貢献 20%、プレゼンテーション 30%、中間レポート 25%、最終レポート 25% | 授業に関する質問は授業の前後及び教員のオフィスアワーで対応する。

<教科書>

李修京 (2020.3.31)
多文化共生社会に生きる
明石書店

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、成績の付け方など
2	人権意識 (1)	人権保護
3	人権意識 (2)	障害のある人について
4	人権意識 (3)	移民・難民
5	世界各地の多文化共生社会 (1)	紛争地域について
6	世界各地の多文化共生社会 (2)	宗教
7	世界各地の多文化共生社会 (3)	スポーツ文化
8	日本の多文化共生社会 (1)	地域社会
9	日本の多文化共生社会 (2)	インターネットによる被害
10	日本の多文化共生社会 (3)	日本の難民
11	日本の多文化共生社会 (4)	人間としての尊厳
12	多文化共生のための教育 (1)	教室の中の人権
13	多文化共生のための教育 (2)	多文化とは
14	復習	問題点の深掘り
15	まとめ	まとめ

科目コード	35217		区分	コア科目 スポーツビジネス		実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	スポーツ経営学入門		担当者名	小堀 浩志		○			
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

人間世界の様々な部分に経営管理が存在することを理解し、スポーツの世界にも経営管理が存在することを理解する。さらに、その経営管理の立場から「豊かなスポーツ生活」の実現をするために、その理念と方法を学習することに重きを置く。特に、運動者の立場に立った経営管理の考え方を重視するとともに、現代スポーツ社会における諸問題を中心に、具体的な実践につながるような授業を展開していく。

<授業の到達目標>

地域等のスポーツ振興に必要なスポーツ経営の基礎理論及び実践的方法論を学習する。特にスポーツ経営の諸問題を参考にしながら、経営学的な考え方をできるようにする。

<授業の方法>

資料を配布して、一斉授業と少人数でのグループワークを中心に展開していく。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 次週課題（発表準備等）について1時間 復習 授業後の課題について1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

広くスポーツ経営に関わる専門知識・技能を備え、スポーツ関連企業に関連する社会現象を分析・理解し、新たな戦略を創造・提案できる能力を身に付ける。また、社会や企業活動、経済活動に必要な情報を収集し、課題解決のため意見を交わし提案するコミュニケーション能力を身に付ける。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度 30%、 授業内での課題 40%、 レポートの課題 30%

<教科書>

特になし

<参考書>

畑攻・小野里真弓

基本・スポーツマネジメント

大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の概要説明・評価方法の説明
2	スポーツマネジメント(経営)がめざすもの	スポーツとマネジメント(経営)
3	スポーツマネジメントの方法	スポーツマネジメントの基本的使命
4	マネジメント(経営)組織の理念	マネジメント(経営)と理念の関係性
5	組織における人間観	クールアプローチとウォームアプローチ
6	マネジメントとマーケティング論	マーケティングの基本的な仕組み
7	スポーツプロダクト	スポーツサービスとスポーツベネフィット
8	スポーツ事業と運動生活 I	運動の成立条件としてのスポーツ事業
9	スポーツ事業と運動生活 II	運動生活と各スポーツ事業の特色とマネジメント
10	スポーツリーダーシップとマーケティングの基本	競技スポーツ集団としての組織論と消費者の認知行動過程
11	スポーツ政策	スポーツ政策の基本スタンスとわが国の主なスポーツ政策
12	スポーツの普及・振興を目指して I	アスリート育成とマネジメント
13	スポーツの普及・振興を目指して II	ダンス指導とマネジメントとフィットネスクラブのマネジメント
14	スポーツの発展・スポーツ教育の充実を目指して	女性スポーツのマネジメントと保健体育の教育とマネジメント
15	スポーツ経営学入門のまとめ	スポーツ経営学の基本的なまとめ

科目コード	37506		区分	コア科目 スポーツビジネス		実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	スポーツマーケティング論		担当者名	小堀 浩志		○			
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

スポーツマーケティングは近年、オリンピックをはじめ様々なスポーツに導入され、人とスポーツをより活発化させる機能として、大きな役割を果たしている。本講義では、スポーツマーケティングの歴史と発展その特性を知り、またスポーツマーケティングの幅広い要素と機能を実例を通じて学ぶことで、その本質を理解することを目的とする。また講義の終盤では、国内のスポーツマーケティングの実例も紹介する。

<授業の到達目標>

スポーツマーケティングの特性を理解する。スポーツマーケティングの幅広い機能を理解する。プロスポーツを中心にスポーツマーケティングの最新事例を知る。

<授業の方法>

講義形式を基本とし、少人数でのグループワークを展開していく。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

インターネット等でスポーツマーケティング関連の情報を確認する。|授業資料を中心とした一斉授業と少人数のグループワークを中心に展開していく。|毎週最低でも準備に1時間の予習時間、講義内容のまとめ・理解に1時間の復習時間が必要である。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

広くスポーツ経営に関わる専門知識・技能を備え、スポーツ関連企業に関連する社会現象を分析・理解し、新たな戦略を創造・提案できる能力を身に付ける。また、社会や企業活動、経済活動に必要な情報を収集し、課題解決のため意見を交わし提案するコミュニケーション能力を身に付ける。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度 20% グループワーク評価 30% レポート課題(授業時間内及び中間・最終) 50%

<教科書>

教科書 原田宗彦編著、藤本淳也・松岡高著（2008）

「スポーツマーケティング」

大修館書店

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	講義概要、成績評価方法の説明
2	スポーツマーケティングとは何か？	スポーツとマーケティングの概念
3	スポーツマーケティングの歴史と発展	スポーツマーケティングの誕生とその発展
4	スポーツプロダクトの特性	するスポーツとみるスポーツ、サービスマーケティング
5	スポーツ消費者の特性	スポーツ消費者の定義と意思決定プロセス
6	スポーツマーケティングのプランニング	リサーチ、STP、マーケティングミックス
7	プロモーション	広告、PR、イベント戦略
8	スポーツ・スポンサーシップ	スポンサーシップの概念、発展と現状、効果
9	ブランディング	ブランドエクイティとは何か、ライセンスング
10	CRM(カスタマー・リレーションシップ・マネジメント)	顧客との関係、データベースマーケティングの未来
11	価格戦略	スポーツと価格、需要と供給、価格設定
12	マーケティングリサーチ	リサーチの意味、方法、分析と活用方法
13	事例紹介①国内スポーツ	プロ野球、Jリーグ、Bリーグのマーケティング事例
14	事例紹介②国内スポーツ	プロチームマーケティング事例
15	講義のまとめ	講義全体を通じてのまとめ

科目コード	54005		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	資格検定対策V (ICTスキル系)		担当者名	倉田 知秋			○		
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

現代の社会では様々な業種・職種において、効率的な業務運用、成果報告の手段としてのコンピュータ利用は今や必須のスキルである。本科目ではコンピュータリテラシーIおよびIIで修得した知識を活かし、コンピュータ操作の習熟度を高めるとともに、Word、Excel等のアプリケーションを効果的に使いこなす技法を身につけることを目的に、Microsoft社が提供・実施するOfficeアプリケーションの資格検定試験MOS (Microsoft Office Specialist) の資格取得を目指す。

<授業の到達目標>

資格試験対策勉強を通じて、PC操作の習熟を目指すとともに、ビジネスアプリケーションの重要性と業務効率性との関係について学ぶ。また、MOS試験の概要を理解するとともに、試験に合格するための力を身につける。

<授業の方法>

MOS試験のうち、Word、Excel、PowerPointの3科目を受験対象科目として講義を行う。授業期間は前・後期の通期のため、概ね2週に1回程度の進度である。それぞれの試験の出題範囲の各テーマごとに解説をオンデマンドで配信し、問題演習で理解度をチェックする。また、教科書に付帯の模擬練習問題を各自で実施して理解度を高める。合格するための勉強方法についても適宜解説する。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・事前学習：授業予定の教科書範囲について、自分で問題を解く(1時間程度)。|・事後学習：授業で学んだ範囲を復習し、模擬練習問題を繰り返し行う(2時間程度)。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

現実の課題に対し、経営活動での知識や情報をもとに論理的・数量的に分析する力、戦略的に問題解決に向けた意思決定をする力を身に付けている(DP5)。

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

オンデマンド配信の視聴確認と問題演習の提出(40%)、模擬試験問題の達成状況(60%)で評価する。

<教科書>

教科書は初回授業で指示する

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	MOSの解説、試験概要、模擬練習プログラムの解説
2	Word練習(1)	Word2019のMOS試験範囲の確認とポイント解説
3	Word練習(2)	Word：ホームタブ、挿入タブの練習
4	Word練習(3)	Word：表の挿入、参考資料
5	Word練習(4)	Word：ファイルタブ
6	PowerPoint練習(1)	Powerpoint2019のMOS試験範囲の確認とポイント解説
7	PowerPoint練習(2)	PowerPoint：ホームタブ、挿入タブ
8	PowerPoint練習(3)	PowerPoint：アニメーションタブ
9	PowerPoint練習(4)	PowerPoint：デザインタブ
10	理解度確認(1)	Word、PowerPointの模擬試験問題を実施して習熟度チェック
11	Excel練習(1)	Wxcel2019のMOS試験範囲の確認とポイント解説
12	Excel練習(2)	Excel：ホームタブ、挿入タブ
13	Excel練習(3)	Excel：数式タブ
14	Excel練習(4)	Excel：ファイルタブ
15	理解度確認(2)	Excelの模擬練習問題を利用して習熟度チェック

科目コード	54002		区分	キャリア形成科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	資格検定対策Ⅲ(簿記系)		担当者名	手嶋 竜二			○		
配当年次	0	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

簿記は実学である。簿記検定を取得することは、就職活動に有利であり、また就職後の実社会で役立つ。本科目では、日商簿記特有の傾向を分析した対策を施し、さらに高度な知識の吸収と演習により、日商簿記検定2級（または3級）の合格を目指す。

<授業の到達目標>

日商簿記検定2級（または3級）の合格を目標とする。

<授業の方法>

① 簿記の基礎を学習しており、さらに日商簿記検定2級（または3級）取得を目標とする者に限る。② 授業の方法は、授業では主に問題演習を行う。③ 電卓演習・集計作業などの計算を行う場合もあるので、各自電卓（関数電卓不可）および定規を持参すること。④ 第1回に参加することは必須で、授業方針を納得の上履修すること（他の授業への参加・公欠などのやむを得ない事情がある場合には、事前に担当教員へ連絡すること）⑤ 本科目では、問題演習科目であるため、個人学修によるところが大きい。⑥ 本科目では、日商簿記検定合格を目指して

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

① 専門用語の理解と技術定着をはかるため、予習・復習を重視する。② 授業で行った問題を必ず次回までに再度解いておくこと。③ 日商簿記の資格取得系科目の自宅学習は1日3時間 {予習(1.5時間)では授業動画を視聴し、テキストを読み、例題を解く、問題演習を行うこと。復習(1.5時間)として問題演習を行うこと。} 週に21時間を費やす必要がある。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

現実の課題に対し、経営活動での知識や情報をもとに論理的・数量的に分析する力、戦略的に問題解決に向けた意思決定をする力を身に付ける。そのために、本科目では、まず経営活動を貨幣数量的に捉える方法、原理、原則を学ぶ。つぎに、貸借対照表や損益計算書といった財務諸表の作成プロセスを学ぶ。そして、そのプロセスを理解することにより経営活動を数量的に分析する、あるいは戦略的に問題解決に向けた意思決定する能力を身に付けることができる。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

① 受講態度・学習意欲・授業への参加度 30%，② 小テスト 70% | フィードバック：締め切り後、すぐに解答を発表し、解説をする。

<教科書>

TAC出版開発グループ(2022.2.27)

みんなが欲しかった！簿記の問題集 日商2級 商業簿記 第11版

TAC出版

その他、教科書販売リストを参照し、購入すること。

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価方法、授業方針
2	第1問対策	仕訳問題（2・3級）
3	第2問対策	2級商業簿記（勘定記入、伝票、仕訳日計表）、3級（帳簿）
4	第3問対策	2級商業簿記（精算表、財務諸表、連結会計）、3級（試算表）
5	第4問対策	2級工業簿記（仕訳、勘定記入、部門別個別原価計算）、3級（伝票、訂正仕訳、勘定記入）
6	第5問対策	2級工業簿記（総合原価計算、標準原価計算、直接原価計算）、3級（精算表、財務諸表）
7	過去問題①	2級・3級（過去の6月検定問題）
8	過去問題②	2級・3級（前年度11月検定問題）
9	過去問題③	2級・3級（前年度2月検定問題）
10	過去問題④	2級・3級（前々年度6月検定問題）
11	過去問題⑤	2級・3級（前々年度11月検定問題）
12	過去問題⑥	2級・3級（前々年度2月検定問題）
13	予想問題①	総合問題（1）（2・3級）、弱点克服
14	予想問題②	総合問題（2）（2・3級）、弱点克服
15	予想問題③	総合問題（3）（2・3級）、弱点克服